

2 事業の目的と概要	
<p>(1) 事業概要</p>	<p>本事業は、タジキスタン共和国でインクルーシブ教育（以下、IE）の視点を取り入れた教職課程の構築を通じて、同国におけるIEの拡大を促すことを目的とする。本事業の拠点校ラシュト教員養成大学において、IEに精通した大学教員を養成すること、また、教職課程担当教員が授業で活用できる指導実例集を作成することで、持続発展的なIE人材育成を後押しする。さらに、構内のバリアフリー設備を整えるとともに、障がい当事者とその家族を対象とした進学説明会を開催し、障がい当事者の教職へのキャリアパスを支援することで、同国内におけるIEの推進に寄与する。</p> <p>This project aims to promote Inclusive Education (IE) throughout the country of Tajikistan by developing teacher training course at higher education, and to increase the access to education for all students in different learning needs including students with disabilities. Training on university professors to give lectures on IE to students - future teachers, shall bring an expansion of IE practices as the graduates will start teaching in different regions in the country. A guideline to be created on lectures for IE allows university professors to continue their practices independently in the future. Accessible construction and information session shall increase the access for all students including students with disabilities to higher education and further carrier opportunities.</p>
<p>(2) 事業の必要性と背景</p>	<p>ア) 事業実施国における開発ニーズ</p> <p>タジキスタン共和国は、2018年に障害者権利条約に署名をしたものの、2021年7月現在、未だ批准には至っていない。同国の障がい者数は157,372人（同国労働・移民・雇用局2021年）、ドゥシャンベでは50,260人（同国全国障がい者団体2021年1月）、ラシュト市では1,839人（ラシュト群教育委員会、2021年6月）となっている。このうち、全国の障がい者の就職率は8%である（同国全国障がい者団体、2020年）。同国の初等教育純就学率は98%とされているが（EPDC2018年）、障がいや貧困、ジェンダー、あるいはそれらの複合的な理由により脆弱な立場に置かれている子どもたちの就学を目指した対策は遅れている。実際に、初等・中等教育における障がい児の就学率は40%に留まっており（教育科学省、2019年4月聞き取り時点）、高等教育においては障がいのある学生の割合はさらに低下し、ドゥシャンベ市の国立教員養成大学で全学生のうち僅か0.3%（ドゥシャンベ市の国立教員養成大学、2021年4月聞き取り時点）、ラシュト市の国立教員養成大学でも1.4%（ラシュト市の国立教員養成大学、2021年6月聞き取り時点）しか在籍していないことが分かっている。卒業後の進路について、ドゥシャンベ教員養成大学の障がいのある学生の95%が教員、ラシュト教員養成大学の障がいのある学生の90%が教員へ就職することが分かっている（各大学への聞き取り調査、2021）。</p> <p>こうした、障がいのある児童・学生が公教育から疎外されている状況を打開するため、タジキスタン政府は、UNICEF、UNESCO及びEUの協力のもと、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指し、国家教育発展戦略¹（2021年～2030年）を2020年9月に策定した。同戦略の中で、包摂的（インクルーシブ）且つ平等な教育機会を保障し、また、技能獲得や知的発達、雇用促進に貢献することのできる効果的な教育システムを構築するための7つの中期成果指標の1つとして「全ての社会的グループのためのIEが保障されている」と掲げる等、IE推進に向けた決意を明示している。しかしながら、本戦略や指標は未だ同国内の教育現場で根付いておらず、全国でIEの実効性を高めることが大き</p>

¹ 国家教育発展戦略 (National Strategy for Education Development of the Republic of Tajikistan for the period until 2030) https://planipolis.iiep.unesco.org/sites/default/files/ressources/tajikistan-education-sector-plan_2021-2030pdf.pdf

な課題となっている。IE を推進するための教員研修の方針や、高等教育機関の教職課程の在り方についても、具体的な方策を示しながら導入する必要がある。

(イ) 事業地・事業内容

①事業地

当会は 2014 年からの 3 年間はドゥシャンベ市において、また 2017 年からの 3 年間はヒッサール市において、IE 推進事業を実施し、バリアフリー工事、教員研修や啓発活動を通して、特に公教育から排除されがちな障がい児が就学しやすい環境を整えてきた。これらの事業実施を通して、教員養成を担当する教員の障がいや IE についての知識不足が明らかになった。これを受けて当会は、合理的配慮の観点で踏まえたインクルーシブな授業を行うことができる教員を育成するため、2020 年 12 月から首都ドゥシャンベ市の教員養成大学において、IE 推進のための教職課程構築事業を実施している（以下、先行事業）。

本事業では、先行事業を実施しているドゥシャンベ教員養成大学、及びラシュト教員養成大学の 2 校を拠点とする。ラシュト教員養成大学は、共和国直轄領の東部に位置し、東部 5 地域（ラシュト、ジルガダル、ヌロボド、タジカバド、タヴィルダラ）の中で唯一の大学である。同大学は、卒業生の 70% が同地域内で教鞭を執っており、東部の教育における中心的な役割を果たすことが見込まれることから、同大学を拠点校に選定する。先行事業の知見を活かしながら同地域に事業を拡げることにより、今後 IE を他の地域に波及させるためのモデル事例となることが期待される。また、先行事業の成果を定着させるために、本事業の研修時には、先行事業の対象校であったドゥシャンベ教員養成大学の教員も招聘する。

②事業内容

2006 年に創設されたラシュト教員養成大学は、全生徒が 3,884 人、そのうち障がいのある学生は 53 名（約 1.4%）である。同大学の建物内外には多数の障壁（バリア）が存在し、バリアフリートイレは皆無である。ラシュト地域で障がい者支援を行う現地 NGO からの聞き取りでも、学習環境が整備されていないことが、障がいのある学生の大学進学を阻む主要因の一つであることが確認されている。IE 推進の拠点校として、特に障がいのある学生の学習環境を整備することで、合理的配慮についての普及を図るとともに、障がいのある学生の就学増加を目指すためにも、バリアフリー工事は不可欠である。

また、先行事業の研修に参加した研修員からは、これまでは障がいについて理解が乏しく、障がい者に対して偏見を持っていたが、研修に参加したことで障がい者への接し方などについて学び、受け入れられるようになったことが共有された。さらに、研修員の授業を受けた学生からは、以前は障がい者を見かけてもその人にどんな障がいがあるか理解できなかったが、授業を通して障がいについての理解が深まり、障がい当事者がどのようなサポートを必要としているのかが分かるようになったことが共有された。同研修を通じて、教員を養成する段階から IE 理解を促進することの必要性・重要性を確認している。IE に精通した教員養成大学の教員を養成することで、将来教職に就く学生たちが「インクルーシブな教育」について学ぶための環境を整備することができる。さらに、そうした環境で IE について学んだ教員は、学校現場において阻害されがちな子どもたちのニーズを把握し、教育現場に必要な合理的配慮やユニバーサルデザインの導入を実践することのできる重要な人材となる。当会が実施する IE に精通した教員養成事業は、同国内の IE 推進には必要不可欠である。

現在、本事業対象となるラシュト教員養成大学では、ドゥシャンベ教員養成大学と同様に、障がいや IE に関する授業は行われていない（2021 年 4 月当会聞き取り調査）。教職

課程を履修する大学生へのアンケート調査²では、「障がいや IE について学んだことがある」と答えた学生は僅か 5%であり、26%の学生は「障がい児と障がいのない学生は別々に授業を受けたほうが良い」と回答し、46%の学生は「聴覚障がいや視覚障がいのある生徒は通常の学校ではなく、寄宿制の特別支援学校で学ぶべきだ」と回答している³。このことから、教職課程の学生は障がいや IE に対する知見を有さず、学ぶ機会もないまま教職に就いている現実が推察される。こうした状況から、本事業では同大学における障がいや IE に関する授業の実施と、それらを担う教員の育成に取り組む。また、拠点大学を卒業し、教員になる学生たちのバリアフリーの必要性に対する理解を深め、IE を実践するモデル環境を整備することで、上位目標の達成に寄与する。

障がいのある学生及びその保護者が大学進学やキャリアプランに関する十分な情報を得られないことも、障がいのある学生が進学を諦める要因となっている。障がいのある学生が教職に就くことは、生徒の障がいに対する知識を深めると同時に、障がいのある生徒たちにとってのロールモデルともなるため、障がいのある学生の進学を後押しすることは同国の IE 推進のために有意義である。

さらに、タジキスタンでは IE を重視する方針が唱えられているものの、政府機関や市民社会を巻き込んだ IE 推進の動きは見られない。IE を研究する機関や国際 NGO、現地 NGO、学校機関等が連携し、情報共有や課題を解決するための議論を深め、それぞれ組織の能力強化や IE の全国的な推進に向けた後押しが必要である。

●「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関連性

本事業は SDGs の目標 4「すべての人に包括かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に資する。教員養成大学を対象にすることから、ターゲット 4.3にあるようにすべての人に高等教育への平等なアクセスを保障するとともに、インクルージョンの視点を取り入れた教職課程の構築を通して、ターゲット 4.4 や 4.5にある職業訓練に類する教育機会を提供する。卒業生が教員として全国で IE を実践することにより、ターゲット 4.1にあるすべての子どもに対する公正で質の高い教育をもたらすことにも繋がる。

ジェンダー平等	環境援助	参加型開発/ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災
9:不明/未定 9:不明/未定	0:目標外 0:目 標外	9:不明/未定 9:不明/未定	0:目標外 0:目 標外	0:目標外 0:目 標外	0:目標外 0:目 標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動(緩 和)	気候変動(適 応)	砂漠化
0:目標外 0:目 標外	2:主要目標 2: 主要目標	0:目標外 0:目 標外	0:目標外 0:目 標外	0:目標外 0:目 標外	0:目標外 0:目 標外

●外務省の国別開発協力方針との関連性

日本国政府は、対タジキスタン共和国国別開発協力方針(大目標)を「持続的で安定した経済・社会発展が可能な国づくり支援」としている。中でも「基礎的社会サービスの向上」を重点分野のひとつとし、教育分野も支援する。本事業は IE のアプローチを入れた教職課程を構築し、IE に精通した新任教員が全国で教鞭を執ることにより、実践的な IE の推進を支援する。これにより、障がい児を含むすべての子どもが質の高い教育を受け、ひいては同国の経済・社会の発展に寄与することが見込まれる。

●「T I C A D VI および T I C A D 7 における我が国取組」との関連性：該当せず

²ラシュト教員養成大学の教職課程を履修する学生 39 名を対象に実施した。

³ UNICEF が 2016 年に実施した調査内容とも合致する。(タジキスタン共和国国家教育発展戦略、30 頁)

(3) 上位目標	タジキスタン共和国において、公教育を担う教員が IE について理解し、実践することで、障がい児を含むすべての子どもが質の高い教育を受ける。
(4) プロジェクト目標 (今期事業達成目標)	タジキスタン共和国のドウシャンベ教員養成大学及びラシュト教員養成大学において、バリアフリー化、就学促進、人材育成を通して IE を学び実践するための基盤が築かれる。
(5) 活動内容	<p>1. ラシュト教員養成大学のバリアフリー化</p> <p>ラシュト教員養成大学において、建物入口 8 ヶ所へのスロープ取り付け、通路 8 ヶ所のフラット化及び障がい者用トイレ 6 基を含む全 26 基を備えるバリアフリートイレの建設を行う。過去 9 年にわたり、病院や学校においてバリアフリー化工事の施工管理の経験を持つ当会現地職員が、ラシュト教員養成大学の建設担当者である副学長との密接な連携のもとに施工管理を徹底し、技術指導を実施していく。竣工後には本部スタッフで理学療法士の資格を持つ事業担当者がモニタリングを行う。また、障がいのある学生と教員及び訪問者の大学構内でのアクセシビリティを確保するため、同大学へ共用の車いすを供与する。</p> <p>バリアフリー化工事が完工した際には、バリアフリー工事敷設箇所に ODA ロゴが入った看板及びバナーを設置し、供与式を実施する。同供与式には、在タジキスタン日本国大使館特命全権大使、ラシュト教員養成大学関係者、現地メディアのみならず、首都ドウシャンベより教育科学省関係者 1 名及び先行事業副学長 1 名を招待し、高等教育におけるインクルーシブ教育の必要性を再確認し、今後他の地域への IE 普及を訴える。</p> <p>2. 就学支援</p> <p>社会的に情報弱者になりやすい障がい当事者とその家族を対象とした就学支援を行う。障がい当事者と保護者対象の進学説明会を開催し、竣工したラシュト教員養成大学のバリアフリー設備に関する情報、大学進学に必要な試験や手続き等について資料を配布し紹介する。参加者として、ラシュト及び近郊 4 地域にて、障がい当事者と保護者を計 125 名募り、高等教育への就学意欲を高める。また、ラシュト地域の主要メディアの 1 つである地元紙に本活動の内容を掲載することにより、進学説明会参加者以外の障がい当事者とその家族に就学の機会を周知する。また、ラシュト及び近郊 4 地域訪問の際には、障がい者とその家族が定期的に利用する市役所、病院、ヘルスポスト、障がい者が通う学校に各 35 部ずつ配布することで、社会的に情報弱者となりやすい障がい当事者とその家族に就学の機会の周知を図る。進学説明会のみならず、地元紙を活用した広報も実施することで、障がい者の就学の機会の周知と就学意欲を高める。またタジキスタンでは、参加者間で情報交換をする際、茶を交えて行うことが一般的であり、そうしたものであることで参加者間のコミュニケーションを促進させ、情報共有の活発化を図ることができる。</p> <p>3. 教職課程における人材育成と教職課程指導実例集の作成⁴</p> <p>3-1 教職課程を担当する大学教員への TOT 研修</p> <p>ラシュト教員養成大学は、歴史と教授法学部、言語学部、教育基礎マネジメント学部、数学学部の 4 学部から成り、各学部の卒業生が教員として活躍している。このことから、全学部から選考した大学教員 8 名を対象に、IE に精通したタジキスタ</p>

⁴ 活動 2-4 の中で IE 活動紹介パンフレット及び DVD を配布する（保護者対象の進学説明会 125 部、5 地域教育委員会 100 部、IE 教育情報共有会参加者 75 部、TOT 研修参加大学教員及び大学生 128 部、ラシュト教員養成大学教員 137 部、教育科省 50 部、IE ネットワーク内各団体へ 77 部、）。

ン国内の専門家による全 12 日間の研修を 2 回に分けて実施する。1 回目の研修は障がいについて理解を深めるため、同国内の障がい専門家を講師とし、移動日を含めた 6 日間の研修を行う。2 回目には同国内の IE 専門家による IE に関する研修を、移動日を含め 6 日間で実施する。研修を受けた大学教員は、自身で学生への指導案及びシラバスを作成し、模擬授業を実施後、計 120 名の学生に対し、2 回の研修内容についての講義を計 8 日間実施する。また、IE についての講義後は、受講した学生が授業計画を作成し、模擬授業や、ラシュト地域にある小中高一貫校における 3 日間の実習を行う。TOT 研修の際には、大学教員の学習を支援するため文房具を配布する。研修員が記録したメモはその後の学生への講義、指導事例集作成のための貴重な資料となる。

3-2 日本人専門家による、授業のユニバーサルデザイン化と合理的配慮についての研修の開催

授業のユニバーサルデザイン化と合理的配慮は、すべての子どもに質の高い教育を確保するための授業を実践するにあたり欠かせない項目である。この 2 点について、タジキスタンの教育事情に造詣が深い日本人 IE 専門家を招き対面で研修を行う。ラシュト教員養成大学の研修員に加え、先行事業で支援したドウシャンベ教員養成大学の研修員を含む計 16 名を対象に、ドウシャンベにおいて全 4 日間の研修を行い、タジキスタンで実施可能な好事例を学ぶだけでなく、先行事業地のモデル校を訪問し実地指導の向上に努める。上記の通り、研修後は指導案及びシラバス作成と模擬授業を経て、計 120 名の学生に対し講義と実習のサポートを行う。日本人専門家は、これらの研修内で作成される指導案や指導方法に対する対面での助言も行う。新型コロナウイルスの感染状況次第では、事業成果の最大化を図る目的で本研修をオンライン研修に切り替えて実施する。

先行事業の研修員が本事業の研修員とともに継続的に研修を受けることで、研修員間の情報交換及び研修成果の向上が期待されるとともに、タジキスタン国内における IE の波及を目指す。また、日本人専門家による研修の際には、大学教員の学習を支援するため文房具を配布する。研修員は記録したメモを基に学生への講義、指導事例集作成し、日本人専門家がそれらの添削を行う。

3-3 大学教員用教職課程指導事例集の作成

学生に講義をするための計画と実施後の記録を実例集としてまとめ、ODA、教育科学省及び当会のロゴの入ったステッカーを貼付した実例集をラシュト教員養成大学の 4 学部 137 名の教員に配布し、講義に活用できるようにする。

4. IE ネットワークの拡大とタジキスタン IE 教育施策への提言書の提出

先行事業で構築した IE ネットワークでは、教育科学省や障がい当事者団体、高等教育機関、NGO 団体などを巻き込み、タジキスタン国内の IE に関する取り組みの方向性や課題などが議論されている。本事業においては、同ネットワークにラシュト教員養成大学、障がい者支援団体、障がい当事者団体を各回 2 名ずつ招聘し、タジキスタン全土に IE 普及を図るための基盤づくりに寄与する。計 8 団体 30 人から成る IE ネットワークの参加メンバー間で情報共有会を年 3 回開催し、ドウシャンベ及びラシュト地域の IE 推進に向けた取り組みや、学校運営の方針等を共有する。また、先行事業及び本事業で実施する高等教育における IE 実践の様子をビデオで記録し、IE ネットワーク情報共有会にて放映する。タジキスタン国内の高等教育における IE に関する取り組みの方向性や課題などを洗い出し議論を活発化させる。また、タジキスタン国内教育現場において IE をさらに促進していくため、ネットワーク内での議論や視察を踏まえ、現在同国政府内で改訂中の「IE における国家概念的枠組み」への提言書を教育省担当官に提出する。各参加者の発表後には茶を交えてディスカッションの場を設けることで、メンバー間のコミュニケーションを促進さ

	<p>せ、ネットワーク内での情報共有の活発化を図ることができる。</p> <p>制作された IE 実践を記録したビデオ及びパンフレットは、先行事業及び本事業拠点校、ラシュト地域及び近隣 4 地域教育委員会など関係者 700 名に配布することで、今後拠点校内での研修、啓発活動、広報活動の際などにも活用してもらう。</p> <p>直接裨益：ラシュト教員養成大学に通う障がいのある学生（新生を含む）53 名、研修参加教員 8 名、ラシュト教員養成大学 4 学部の学生 120 名、4 学部の教員 137 名、ラシュト及び近郊 4 地域の障がい当事者と保護者 125 名、ラシュト地域及び近郊 4 地域教育委員会 100 名、IE ネットワーク内各団体 77 名、ドウシャンベ教員養成大学の研修参加教員 8 名</p> <p>間接裨益： ラシュト教員養成大学全学生 3,884 名、IE ネットワーク参加組織 8 団体、ドウシャンベ教員養成大学全学生 18,500 人</p>
<p>(6) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラシュト教員養成大学のバリアフリー化 <ul style="list-style-type: none"> 【成果】障がいの有無に関わらず、ラシュト教員養成大学の学生が不自由なく学校施設を利用することができる。 【指標】障がい者を含む学生を対象とした事前事後のアンケート調査において、「段差や溝などで通行や利用を妨げられることなく学校施設を利用できる」という回答が 80%以上となる。 【確認方法】アンケート 2. 就学支援 <ul style="list-style-type: none"> 【成果】教員養成大学への就学を検討する障がいのある学生が増加する。 【指標】進学説明会参加者へのアンケートで、「教員養成大学入学に関する有益な情報が得られた」という回答が 80%以上となる。 【確認方法】アンケート 3. 教職課程における人材育成と教職課程指導事例集の作成 <ul style="list-style-type: none"> 【成果】ラシュト教員養成大学及びドウシャンベ教員養成大学において、障がいや IE を教授する大学教員が育成され、必要な教材が開発・整備される。 【指標】 <ol style="list-style-type: none"> ① TOT 研修を受講した大学教員の講義を受けた学生の事後テストの正答率が 80%以上となる。 ② 日本人専門家による、授業のユニバーサルデザイン化及び合理的配慮についての研修に参加したドウシャンベ教員養成大学及びラシュト教員養成大学の教員が、授業のユニバーサルデザイン化と合理的配慮について理解し、事後テストの正答率が 90%以上となる。 ③ 大学教員用 IE 教職課程指導事例集が改訂され、ラシュトの教員養成大学において配布される。また、その事例集活用説明会の参加者を対象にした事後のアンケート調査において、「有効に活用したい」という回答が 80%以上となる。 【確認方法】事後テスト、改訂版指導事例集、アンケート 4. IE ネットワークの拡大とタジキスタン IE 教育施策への提言書の提出 <ul style="list-style-type: none"> 【成果】ラシュト地域の障がい者支援関連団体を含む IE ネットワークが拡大し、高等教育における IE の実践を記録したビデオを通して議論が活発化され、IE 教育施策へ提言書が提出される。 【指標】 <ol style="list-style-type: none"> ① 情報共有会参加者へのアンケートで「IE 教育施策へ提言するための有用な情報を得られた」、「IE の実践を記録したビデオを通して、IE 実践現場の理解が深ま

	<p>った」という回答が80%以上となる。</p> <p>② IE ネットワークにより提言書が作成され、教育科学省担当官に提出される。</p> <p>【確認方法】アンケート、提言書</p>
<p>(7) 持続発展性</p>	<p>本事業で実施するラシュト教員養成大学のバリアフリー化工事については、大学の建設事業担当副学長と連携を取り、引き渡し以降も拠点大学が修繕管理を自身で適切に行えるよう建設期間中に施工管理を協働で行う。修繕管理に必要な資金は、拠点大学が国庫支出金から確保する。また、バリアフリー化工事による障がい学生の入学率のフォローに関して上記副学長と連携しモニタリングを実施する。教職課程構築においては、研修員が作成した大学教員用の教職課程指導事例集を活用し、本事業の研修員が他の教員にも研修内容を普及し、拠点大学においてIEについて質の高い講義が行われるようにする。1年目で作成した大学教員用の教職課程指導事例集は、2年目に実際に活用しながら改訂しつつ普及を図り、3年目にはIE教本として完成させたものが現地で持続的に活用されることを目指す。なお、3年目以降も教本の改訂が行われるよう、教育科学省や国立教育研究所との協力体制を継続する。本事業で構築されたIEネットワークは、次年度以降もさらに対象地域や参加団体を拡大し、情報共有会を発展させたシンポジウムを開催するとともに、IEの全国的な普及を後押しする。</p> <p>在タジキスタン日本大使館による事後状況調査においては、拠点校であるラシュト教員養成大学において、バリアフリートイレやスロープなどの使用と管理状況を確認されたい。また、教職員研修に参加した教員や近郊の学校に勤務している卒業生を訪問し、指導事例集の活用状況やIEの実践状況を注視されたい。</p>